

環境配慮行動としてのマイバッグ運動

一方、消費者に向けて、行政や地域の消費者団体・ごみ問題に取り組む団体などが、マイバッグの持参を呼びかける運動を展開してきました。

また、事業者の取り組みとしては、1978年に資源の有効利用とゴミ削減のためにスタートした「買い物袋再利用活動」が出発点です。その後、「買い物袋持参運動」へ広がり、1995年6月には、レジ袋が必要な方は1枚5円を代金箱に入れる「マイバッグ運動」へと発展しました。

■ マイバッグマナー

買い物中は折りたたんでおく。商品は店の買い物カゴに入れる。レジが済んでからマイバッグを利用する

4. 食品廃棄物を減らす

ここでは、人口増加や異常気象等による世界的食糧危機という警鐘が鳴らされる中、先進国で問題となっている食品廃棄物問題について紹介します。

食品廃棄物を減らそう！

多くの食料を輸入している日本で、年間に食べられている量は約8424万トン/年。そのうち、1年間に生ごみの量は、家庭から1072万トン、レストランやスーパーなど事業系から641万トン。生ごみの中で、まだ食べられるのに廃棄されたものは、家庭やレストランやスーパー等から年間で約500～800万トンにも上ります（農水省平成22年度推計）。

家庭での理由は、多い順に、①野菜の皮の厚剥きなどの過剰除去、②食べ残し、③期限切れ（直接廃棄）、レストランでは、客の食べ残し、仕込み過ぎなど、スーパーでは、商品の規格変更、期限切れ、パッケージの印刷ミスなどによる返品で発生しています。

こうした食品廃棄物の発生を回避するためには、消費者や事業者が意識を変えることが必要です。適正な量を注文して食べ残しが出ないようにすることが大事です。もし、残した場合、持ち帰りのできるお店も増えていますので持ち帰り可能か確認してみましょう。

レジ袋有料化

大学生協でもレジ袋の有料化が進んでいます。トップを切った千葉大では、レジ袋を1枚5円にしたところ、95%のレジ袋を削減できたと発表し、以後有料化する大学生協が続いています。京都大学では折衷案として、「レジ袋が欲しい方は声を掛けてください。差し上げます。」と張り紙をし、配布を中止しました。その結果、有料化せずに95%のレジ袋を削減することができました。全国のレジ袋有料化自治体等の詳しい情報は下記をご覧ください。環境省HPより

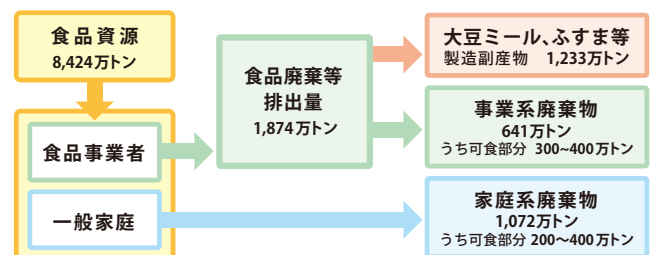
http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=11319&hou_id=9647

“期限”の違いを理解しよう！

農水省も、我が国の食品廃棄物削減を進めており、流通業界の独特の商慣習（賞味期限1/3ルール※）について見直すことを事業者に呼び掛けています。

一方で、私たち消費者も、「賞味期限」と「消費期限」の違いを理解することが求められます。「賞味期限」は、『おいしく食べることでできる期限』ですから、それを過ぎたとしてもすぐに廃棄せず、におい等の五感を使って食べられるかどうかを判断することが必要です。他方、「消費期限」の場合は長期保存できない食品に表示されていますので、きちんと保存し、期限内に食べ切るようにしましょう。

■ 食品廃棄物量の状況（平成22年度）



※農林水産省データより作図